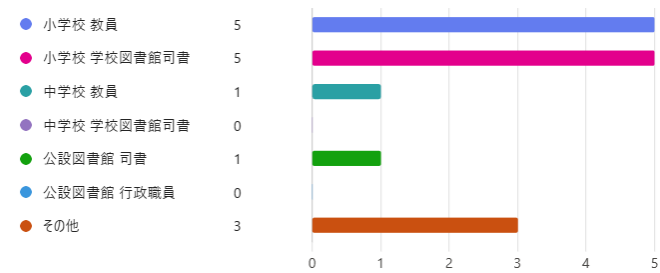


大阪市立南市岡小学校「図書館教育」公開授業・講演会参加者アンケート結果(2025 年 10 月 8 日)

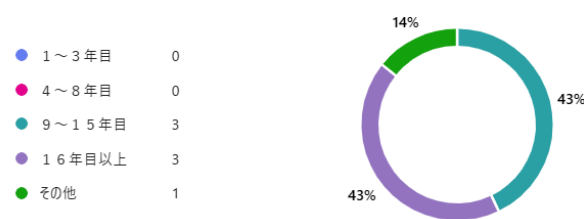
1. 参加された方の校種、職種等をお答えください。



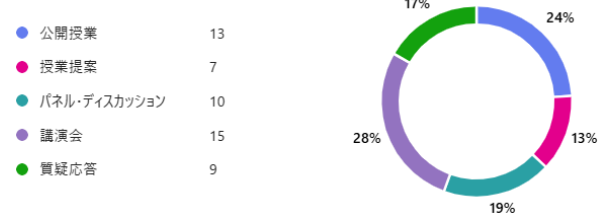
8. 本日の公開授業で得た知識や気づきは、今後の実践に活かすことができそうですか。



4. 教員の方は教職経験年数をお答えください。



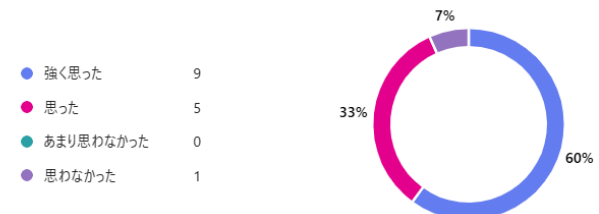
9. 本日の公開授業でよかったと思われる内容を全てお選びください。



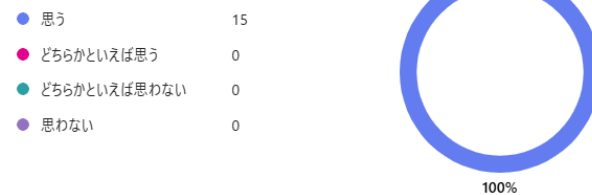
5. 教員の方は職種をお答えください。



10. このような授業をやってみたい、または、広めてみたいと思いましたか。



6. 本日の公開授業での説明や資料、教材は、わかりやすいものでしたか。



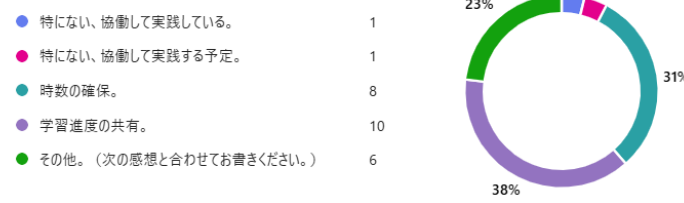
11. 今日の実践報告で「学習者用端末」の有効な活用はできていたと思いますか。



7. 本日の公開授業で、自分の知識を深めたり、新たな発見をしりましたか。



13. 学校司書と教員が学習支援をするために必要だと思うことは何だと思いますか。



12.今日の実践報告で「学習者用端末」の有効な活用はできていたと思った、または、思わなかった理由をお書きください。 14.本日の公開授業の感想をお書きください。

1	他	12	児童が画面を拡大して、漢字の形などを確認していた事が面白かった
2	小教員	12	図書資料と並行して端末を工夫して使っていたと感じました。
		14	貴重な内容の公開授業、パネルディスカッション、講演会をありがとうございました。本を進んで楽しんで手に取る子どもを育てられるように、自分が出ることから取り組みたいと思いました。司書の方とのコミュニケーションも、週に1回だけですが、大切にしないといけないなと感じました。

(中林)ありがとうございました。週1日の関りから、取り組みが始まると思います。

3	中教員	14	改めて図書館が持つ力と重要性に気付かされました。ここまで熱意のある研究会に参加することができて良かった。ありがとうございました。
---	-----	----	--

(中林)ありがとうございました。私も実践してみて、学校図書館の魅力を常に感じています。

4	小教員	12	情報にたどり着くまでの2次元コードを用意するなど、手間を惜しんでいないところが素晴らしいと感じました。
		14	学校司書さんとの連携が素晴らしくて、見習うべきところがたくさんあるなあと感じました。大変貴重な機会をいただきありがとうございました。

(中林)連携、協働と題して授業を展開しました。手紙のやり取りからでも始められる気がします。日にちや時間が合わないときは、付箋で連絡もしました。いろんなツールを使って、子どもや授業の様子を知ってもらっています。感想をありがとうございました。ご感想を拝読して、ご自身が実践される場合の体制や人員確保などに難しさを感じられたのだと思います。

5	小教員	12	調べ学習で活用し、発表に向けスライドを作っていたため。
		14	<p>子どもたちが生き生きと活動している授業でした。これができたら子どもたちも得るものは多いし、やってみたいとも思いました。</p> <p>しかし、この学習ができるのは、主幹学校司書がいるからです。大阪市内で主幹学校司書がいるのは区にわずか一校？です。この内容を担任一人でするには、かなりの時間がかかりますし、当たり前ですが担任は他の教科の教材研究もあるので、この学習だけに時間をさくことはできません。団体図書の手続きも担任がすれば負担がとても大きいです。「協働」「連携」はもちろん大切なのはわかりますが、たったの週1回ではお互い歩み寄ったといえ、無理があります。また、今日の学校司書の方はとても有能な方でした。</p> <p>しかし、大阪市内に配置されている学校司書の方が全てそうではありません。「司書の方にこんなことを頼んでもいいのですか」と仰られていましたが、こちらが頼んでも頼んでも「できません」「やったことがあります」と断られ続けたこともあります。</p> <p>大阪市内は、学校司書の体制を整えることがまず第一です。やってみたいのに、いいことを知ることができたのに、あまりにも実態とかけ離れていて、残念な気持ちの方が大きいです。</p> <p>主幹学校司書がない学校図書館の実践を見て勉強したいです。</p>

(山下・辻)お忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。学校によって、司書の配置や先生方の思いなど違うところがありますが、ご参加いただいたそれぞれの立場の方に、本校の取り組みを見ていただいて、少しでも参考になることがあればという思いで取り組んでいます。学校司書の配置により学校図書館をより有効的に活用できるという、現場の思いを発信することで、多くの学校に主幹学校司書が配置される体制が整うことを願っています。貴重なご意見をありがとうございます。

(中林)今回は、連携の提案(事例として)として授業をさせていただきました。今後、大阪市の学校司書の体制の見直しがあり、学校司書や、主幹学校司書配置の増員や、学習センターとしての学校図書館がさらに広がるように願っております。

6	小 教 員	12	調べ学習での適切な活用、発表の手段としての使用
		14	13 の回答 学校司書のスキルアップと教員の意識改革。学校司書の空き時間の確保。 14 の回答 これまでの丁寧なご指導と実践の積み重ねあつての今日のご授業だったと思います。指導案も読みごたえがあり、これまでの詳細がよくわかりました。ありがとうございました。
(中林)ありがとうございました。学校図書館活用も積み重ねが大事だと私自身も改めてわかりました。			
7	小 司 書	12	担任の先生が児童に、「〇〇、みりよく」と検索をかけても、それは AI がそれについて魅力だと感じていることで、あなたが感じていることではないよ。というように、インターネットで調べて得る情報の使い方を児童に分かりやすく説明されていたのが良かったと思います。
		14	公開授業で実際の授業の様子を見せて頂けたことと、その後のおはなしで、どういう風に準備を進めてきたかということもよく分かり大変勉強になりました。学校司書と教員が協働して動くことでよりよい授業ができるということがよくわかりました。 宮澤さんの講演もすごく良かったです。とても納得しました。パワーをもらえました。学校司書という立場で、なぜか先生方に遠慮してしまいがちで弱気になってしまう場面もあるのですが、中林先生から、教員と学校司書でお互い遠慮しすぎてしまっているところもあるかもしれないとおっしゃっていたのを聞いて、先生方も気にされているんだなということが分かりとても良かったです。私自身、まだまだ学校司書としてできていないところが多々ありますが、今回の公開授業や講演を聞いて、皆さんのように、笑顔と信念を持って頑張っていこうと思いました。ありがとうございました。
(中林)ありがとうございました。今回の授業で、学校司書の方々と教員は必ず協働できると思っています。子どもの学力、生活力、調べる力、どれをとっても、司書の方と連携すれば、授業が広がります。私自身、学校図書館に魅力を感じ始めてから、学校司書の方々とつながりをとても大切にしています。			
8	そ の 他	14	子ども達が、本やタブレットを自在に使いこなしている姿に、驚きました。複数の先生方に、様々な視点から、丁寧に「和」の文化を紹介されたことが、よりどころとなって、自分から意欲的に課題に取り組む姿勢が印象的でした。 指導助言の中で、団体貸し出しの際に、授業をされている先生方と学校司書の間で、共有している授業の意図や、子ども達の読書レベルを、地域の図書館司書へ伝えることも、より学びを深めるために、必要なことなのだと、初めて知り、大変勉強になりました。大阪にも、長野県のようなシステム(子どもからのリクエストがあれば、2日で地域の図書館の本が届く)が早く出来れば良いと思いました。
(中林)たくさんの先生方に協力していただきました。子どもたちのやる気につながりました。			
9	小 司 書	12	端末の利点だけでなく気をつけないといけない点を皆で押さえた上で、有効に活用していこう、という姿勢がちゃんと示せていたため。
		14	教員、学校司書お互いの役割を認め合つての協働ぶりが素晴らしかったです。その信頼関係はきっとこれまでの日々の積み重ねからくるものだと思います。たいへん勉強になりました。ありがとうございました。今の勤務校で何を実践できるかなー、と考え中です。
(中林)言語活動で作った成果物がある場合は、感想を書かせてもらうのもいいかもしれません。新聞や、リーフレットなど必ず何か国語で作成していると思います。			
10	小 司 書	12	スライドを使つての発表が行われていたから。
		14	児童たちの文章構成力が高く、字も丁寧に書こうと意識している点が印象に残りました。 この単元が終わっても、日常生活の中から「和と洋」の魅力を見つけ続けられる児童に育つのではないかと、という可能性が感じられました。

(中林)ありがとうございました。先日給食に「和風ハンバーグ」が出ました。ハンバーグは洋食なのに、和風はなんで？とクラスで話題になりました。ソースが和風だそうです。子どもたちは、道具や出来事などに「和、洋、中どれかな」と話すことが多くなりました。印象的だったようです。			
11	小教員	12	パネルディスカッションからの参加でよくわかりません。
14		とても参考になりました。次の職種として、やってみたい、とも思いました！	
(中林)ありがとうございます。			
12	小司書	12	児童が端末を使用する際に教員や司書がフォローをすることができていた様子だったから。
14		素晴らしい授業と講演で、今後に活かせる気づきもたくさんありました。 ありがとうございました。 一方で、このようなことを他校でも実現するためには、学校司書の配置日数を増やすことや、教員と司書、学校など全体の意識改革が必要であると感じました。現場では、教員の中で図書館や司書の活用法があまり浸透しておらず、主幹校でも良さをいかせていない学校が多々あるように感じます。また、司書の方でもスキルアップしていく必要はあると思いました。	
(中林)ありがとうございます。教員の方も、司書の方も協働するということにおいて、意識的になることから始まると思います。私自身も、主幹学校司書が配置されて、初めて、普段の自分の授業実践をさらに深めようと思えるようになりました。			
13	大阪市内小学校図書館ボランティア	12	必要な場面でさっと端末を取り出し、自分の調べたいことを各自で検索していたので。本の方が効果がある場合は本で調べた方がよいことも身についていることが素晴らしいと思いました。
14		貴重な授業を見学させていただき、ありがとうございました。大変勉強になりました。いろいろな気づきがありました。これまでも各学年・クラスで先生方全体で準備や実践をされてきたのだらうと思います。 一人一人の子ども達が着実に情報活用スキルを伸ばせる素晴らしい授業だと思いました。校長先生が仰っていましたが、不登校の子がいない！というのも、子ども達が学ぶ楽しさを感じ、学校で日々成長しているという実感があるのかもしれないですね。『生きる』教育も、安心して通学できることに功を奏しているのではと思います。6年間の実践で、子ども達も先生方もすごく力がつきそうですね。 けれども、このような授業をするために教員と学校司書の連携ができる学校は、大阪市内ではごく限られているのではと思いました。学校図書館ボランティアに行っている学校でも知合いが勤務する学校でも、学校図書館は本好きの限られた子だけが利用している場所になっている、という印象が拭えません。学校司書が週1日勤務の学校では、図書室内や蔵書の整備もまだ充分ではなく、授業支援どころか読書支援もあまり進んでいないように感じます。学習マンガを借りたり読んだりして満足していることも多く見受けられます。開館日が少ないので、子ども達は1冊ずつしか本を借りられず貸出中の本を予約することもできません。ポプラディアも古いものしかありません！ 箕面市や豊中市等では20年前には全小中学校で学校司書の週5日配置が完了して、学校図書館を利活用して情報活用能力の育成まで考慮された様々な教育が行われているそうです。大阪市の多くの学校では、学校司書は週1日ずつの2～3校勤務で、こちらの小学校の司書さんのような働きを求めるのは困難です。授業支援を依頼するのなら、毎日の勤務が必要だと思います。3校の勤務だと、図書室にどんな本があるか把握したり新しく購入する本を選書したり、先生や児童生徒を覚えて対応したりするのも3校分となり、1校ずつに丁寧に対応することは難しいと思います。 学校司書は決して週1日のパートで務まる仕事ではなく、学校図書館の本来の働きをするためには学校司書には多くの専門知識が必要です。ですが、今の雇用条件ではスキルをつける時間もとれませんし、スキルも発揮しづらい状況です。やる気のある人も集まりにくいのではと思います。今の大阪市では学校司書らしい仕事はできないので学校司書の仕事をしたい人は他の自治体で勤務されてい	

			<p>る、と聞くこともよくあります。中央図書館の学校図書館担当の方々も、学校数や司書数に対して少ない人数の職員でコーディネートや連絡を行われているようで大変なご負担があるのではと思われます。</p> <p>仕事量が多いせいか、学校司書へのサポート体制もほとんど当てにできないと聞きます。先生方も今回の授業のような取り組みを行いたくても、行える条件が揃っている学校は少ないのではないのでしょうか？大阪市全体で学校図書館の整備充実のために、人材面でも予算面でも大幅に力を入れることが必要ではないのでしょうか。ずいぶんと他の地域に遅れをとってしまっているのではと心配しています。</p> <p>実際に我が子も進学や就職して、他の地域で育った同級生や同僚と言語力や思考力の差を感じて愕然としています（我が家の努力も足りませんでした）。また、授業が分からないためか授業を聞こうとしない児童生徒が多く授業が成立しない学校やクラス、の話も聞くことがあります。</p> <p>木村校長先生が推進される国語・図書館教育と「生きる」教育が多くの学校に広がってほしいと思います。子ども達の学ぶ意欲と力を伸ばせるよう、大阪市の教育を決定する立場の方々には、ICT環境の整備のみに頼るのではなく専門の職員をきちんと雇用するよう、真剣に検討していただきたいです。</p>
<p>（中林）他市での学校図書館での取り組みなど、詳しくご記入いただきありがとうございます。感想を読ませていただきとても勉強になりました。大阪市の取り組みとして、学校図書館の活性化に重点をおいてさらに推進していくことが大事だと思いました。</p>			
14	公設図書館司書	12	すいません、授業参観ができなかったため、選択しました。
		14	<p>公開授業を参観することができず、申し訳ありませんでした。</p> <p>指導案を拝見して、先生方もともにスライドを作り、発表されていて、子どもたちのおもしろい！と感じた気持ちが伝わってくるような気がします。</p> <p>公共図書館としては、普段、学校司書の方とお話していて、団体貸出を提供する資料が本当にこれだよいか？という疑問がありましたので、今回の実践とパネルディスカッションや講演等でお伺いした内容で、図書館からお送りして教員ときちんと連携がとれた学校司書が事前打ち合わせを行い確認してくださっているとわかり、安心でき、かつ公共図書館の連携のあり方が少しつかめた気がします。</p> <p>また、学校図書館をしっかりと活用されていて、子どもたちが図書館と親しんでいる姿に嬉しく感じました。</p> <p>なかなか教員の方々のお話をお伺いする機会はないのですが、公共図書館に希望されること等伺ってみたいと思います。</p> <p>今回お伺いしたお話をヒントに、今後も連携を考えていきたいと思います。</p>
<p>（中林）日々の積み重ねが子どもたちの学びの習慣を作り出すことを実感しています。教は、調べる＝スマホ、PCではなく、調べる＝図書館に行けば、本もデジタルも、実物もあるという環境作りを徹底しました。必要な資料が一人一冊あるということが、学びに向かう意欲につながっています。そういう意味では、団体貸出が、とても重要で指導者が、目的を明確に司書の方に伝えることが大切だと思います。ありがとうございました。</p>			
15	小司書	12	児童一人ひとりの調べものに十分な紙の資料を準備することは難しい。インターネットもつかって情報を集めることができるのは有効だと思った。
		14	<p>図書館から用意されていた本は特に目新しいものではありませんでした。それでもあれだけ児童が調べることができるのは、調べ方の指導が丁寧に行われていたからなんだと感心しました。公開授業、パネルディスカッションや宮澤先生の講演会と貴重な機会をいただきありがとうございました。</p>
<p>（中林）図書館に行けば新しいことが知れるというワクワクを積み重ねてきました。「それ本当？」「どこに書いてる？」「どこに載ってたの？」という声かけをたくさんしました。知ったことを活かして話すのも楽しんでいきます。</p>			

次のようなコメントもいただきました。許可をいただいたので掲載させていただきます。

伊勢市教育委員会事務局 教育メディア課 読書推進係

子ども読書活性化担当 主幹 宮澤 優子 様より

今回 1 年ぶりにお邪魔して、確実に進化する職員集団の姿を見ました。学校図書館の活用が定着し、その質も上がり、子どもたちの姿にそれが反映されており、ほんの数年でもここまでで できるのだと感銘を受けました。田村先生ともお話をしましたが、言葉と心がうまくつながることの重要性を再認識し、生きる教育と学校図書館の関係 についても自分でも考えてみたいと思われました。

伊勢市でもモデル校事業が順調に進んでおりますが、本格的に学校図書館運営がスタートしますので、やるべきことが山積みの一年になりそうです。とはいえ大変楽しみな 1 年で、伊勢市子ども読書支援プロジェクトの躍進の年にできるように精進してまいりたいと思います。

中林先生、辻先生、山下先生をはじめとして一緒に研究をしてくださった研究班の先生方、準備に当日に奔走してくださった教職員の皆様、お世話になりました。

大阪市立中央図書館

館長 石田 智子 様より

子どもたちが、本とタブレットを使いこなしている授業を実際に拝見し、先生方のこどもたちへの支援の様子など、いろいろと参考になりました。

今回の公開授業は、南市岡小学校において、これまで積み重ねられた取り組みの成果だと思えます。アンケートでは、今回の授業を参考にできるところから取り組みたいというようなお声がありました。市立図書館でも、限られた資源をうまく使っていただけるよう、引き続き支援や周知に努めます。

また、学校図書館活用推進事業を継続していくにあたり、学校現場で求められているということも、アンケートからあらためて実感できました。学校の先生方と学校司書の協働がスムーズにできる環境を整えるべく、進めていきたいと思えます。

なかなかうまく言葉にできなかった部分もあり、いろいろと反省するところも多かったのですが、参加させていただいて勉強になりました。

関わられましたみなさま、ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

元 大阪市立清水丘小学校校長

田村 泰宏 様より

“必然性”が鍵となって、“努力”が実りをもたらします。

南市岡小学校の先生方は、国語科読解指導の研究にとっても熱心に取り組んでおられます。子どもたちの日常生活や並行して進めておられる生きる教育の研究から、やはり子どもの実生活に生きて働くことばの力を伸ばしたいとの願いをどの先生ももっておられることが、その研究の原動力です。

研究授業は、単に教材文読解に終わりません。教材文に関連する事柄や背景を調べたり、発展的に課題を設定して調べ学習に挑んだり、また興味に応じて並行読書・発展読書に取り組んだり、学習活動が、時間を惜しまずにどんどん

広がっていく特長があります。そうするほうが本当のことばの力育成に結び付くと、先生方が直感的に心得ておられるからでしょう。だから、皆さん、自ずと学校図書館を頼りになさいます。先生方の意識のあり方一つで、学校図書館の利活用がこれほど活発になるということに、あらためて感じ入っています。南市岡小学校の研究成果には、このような“必然性”があることに気づきます。

ただし、この研究成果は細やかな努力の積み重ねであることも見逃せません。単純に授業者と学校司書との協働といっても双方の努力なしには成り立ちません。めざす子ども像の共有、どんな学習活動を設定するのか？そのための資料は？できれば一人一資料の準備を…と、きりがありません。

さらに主幹学校司書の辻先生は、日頃から学校図書館利活用の方策を探っておられます。そんな“努力”の積み重ねが、今日の中林先生と辻先生の公開授業、山下先生のご報告に現れていると深く感じています。

日本大学文理学部 教育学科

教授 末富 芳 様の facebook より

みなさんは、パソコンで調べたことと、本で調べたことの違いは自分の言葉で言えますか？

クローズアップ現代でも特集された大阪市立南市岡小学校では4年生が自分の言葉でそれが説明できるんです🌟

小3から子どもの権利を学び、その後の学年にわたってよりよく実現していく生きる教育その基盤となるのが、安全安心な人間関係の中で育む言葉の力です

公開授業に参加しながら、いままさに向き合っている卒論構想に取り組む大学3年生を思い出す私

今までの学びが統合されていない、そもそも取り組みたいテーマが何か見出せない学生たちのことを考えていました

生成AIに問いかけたい何かが自分の中になれば生成AIも使いこなせません

南市岡小学校の先生方、学校図書館の司書の先生、大阪の図書館のみなさま、そして子どもたちに学び、深くエンパワーされました とても素敵な一日をありがとうございました😊 またうかがいます

南市岡小学校、学校図書館の公開授業にご参加いただきありがとうございました。また、アンケートにご回答いただき、貴重なご意見ご感想をいただき、ありがとうございました。

私が中学3年生の時、もの凄く勉強ができる友達がいたのですが、彼は、もの凄く本を読んでいた。勉強ができるから本を沢山読んでいたのか、本を沢山読んだから勉強ができたのか、今は後者だと確信しています。

そして、子どもたちが本好きになることを偶然に任せるのではなく、必然にできるということを12年前に田村泰宏先生に教えていただきました。当時は、学校司書の配置もなく、図書館主任の先生が中心になって図書館から平行読書用の本を借りていました。田村先生から教材関連の図書リストをもらって廊下に書棚を置き読書コーナーも作りました。

子どもたちが、できないのは、教えてもらっていないだけで、私たちが教え切れていないのではいつも省みています。大人も教えてもらっていないことや、まして見たこともないことをするのは難しいと思うのです。

ところが、今回の学校図書館では、私も見たこともない景色を皆さんと一緒に見ることができました。なにより、子どもたちが自分が調べたいことを調べるという学習に胸躍らせ生き生きとしていました。本校教職員を含め、ご協力いただいた皆様のお陰です。ご参会ありがとうございました。

大阪市立南市岡小学校 校長 木村 幹彦